

## 「長浜市地域福祉計画検討委員会 第3回会議」会議概要録

**日 時** 令和3年7月30日（金） 13:30～15:15

**場 所** 長浜市役所本庁舎5階 5A会議室

### **出席者**

（会議構成員）筒井 のり子、平井 和子、堀 直美、北川 美由紀、川村 美津子  
美濃部 裕道、丁野 利彦、川瀬 順子、高山 和代、柏崎 元皓、西橋 義仁  
（順不同、敬称略） 以上11人

（長浜市社会福祉協議会（地域福祉課））

課長 鈴木 茂喜、担当リーダー 山岡 伸次

（長浜市（事務局：長浜市社会福祉課））

健康福祉部長 福永 武浩、健康福祉部次長 横田 留里

課長 中田 重樹、参事 堀江 一敏

副参事 沢本 勸与、副参事 下村 哲也

主幹 山田 智洋、主査 前田 紗希

### **欠席者**

（会議構成員）曾根 昭信、野村 一成、木口 佐知代、鈴木 良嗣、野寺 英里香  
（順不同、敬称略） 以上5名

### **傍聴者**

なし

## 【開会】

- ・健康福祉部長挨拶
- ・平井委員挨拶（新任）
- ・配布資料及び協議事項の確認
- ・筒井座長挨拶

## 【協議】

（事務局）

### ◇団体ヒアリング調査結果報告

- ・前回検討委員会での説明どおり、新型コロナウイルス感染症対策のため書面ヒアリングを実施した。
- ・調査票の内容は、第2期計画策定時を踏まえ、地域福祉全般について、共通する内容としている。

## 【実施概要】

1. 61団体へ調査票を送付
2. 期間：6月25日（水）～7月16日（金）
3. 52団体から回答/回答率85.2%  
（内訳：地域福祉団体26.6%、児童福祉13.9%、高齢福祉32.9%、しょうがい福祉19.0%、その他7.6%※複数回答）
4. 各回答結果の傾向・及び自由記述内容について報告

### ◇団体ヒアリングに対する質疑応答

（座長）

・団体のタイプが大きく違うので、クロス集計でもう少し詳細を知りたい。複合化・複雑化した課題を抱えるケースの把握に関する質問については、第3期計画に掲げる包括的な支援体制や総合相談窓口に関わる大事な質問なので特に精査が必要であると思う。

（委員）

・様々な団体があるので、全体での割合を示すと、団体の種類によって異なる重要な傾向の違いを見落とす可能性がある。個別の解析が必要であると思う。

（事務局）

- ・分野や団体の規模、形態によっても傾向が異なるため、総括するのは難しいと理解している。

（座長）

- ・分類が難しいが、課題、傾向がわかると計画に反映しやすい。更に分析を深めてほしい。

（委員）

- ・質問によって分類を変える方法もあると思う。

（事務局）

- ・難しい部分もあるが、傾向として報告できるようになれば良いと思う。

（座長）

・コロナ禍で各団体が多忙な中、自由記述もしっかりと書き込んで頂いているので、計画に反映してほしい。

◇市民アンケート調査結果の速報について報告

(事務局)

・前回の会議での意見を踏まえ、年代・地域と各質問のクロス集計を更に追加した。その結果について報告する。

◇市民アンケート調査結果に関する質疑応答

(委員)

・団体ヒアリングの結果と市民アンケート調査の結果がリンクしていることに驚いた。

・人のつながりが重要だと考える方が多い一方、地域活動の主体的な参画についての意欲は大きく下がる。これをどう止めるのか、何か施策があるのではないかと思う。何かやりたいが、自分に何ができるかわからない、きっかけがないという人も多いと思う。団体は人材が欲しいとされているので、このアンケート結果を活用すれば、繋げることができるような気がする。

・長浜市社会福祉協議会の業務は幅広いがそのニーズを把握した。関係団体や市民の中で意識の高い人から意見を聞いてみるのもよいと思う。

(委員)

・地域・年代のクロス集計によって新たな傾向がつかめた。

・地域との関りについて、「このままでよい」という意見を満足とみるだけではなく、「これ以上、積極的に関りたくない」という意味もあると思う。

・地域毎・年代毎のグラフは見やすいが、同時に同じ年代の中で結果の1番・2番が変更することに大きな意味がないこともある。質問の回答について年代毎に比較をすることも別の見方ができて良いのではないか。

・地域活動について、「特にできることはない」という人は、やりたくないではなく、自分にできることはないと思込んでいる人もいると思う。この人たちが、こういう形でも地域の役にたっているのだということの啓発ができれば、関りを持てる人が出てくると思う。

・福祉に関する情報提供の、「情報」とは、どういうイメージのものか。

(事務局)

・具体的に「情報」の定義は限定していない。

(委員)

・今回のアンケート結果は尊重するが、アンケート調査の参加者は、元々福祉に関心のある人が多いと思う。実際に地域で生活していると、コロナの影響がかなり大きい。人と人とのコミュニケーションがつぶされている。様々な行事が中止になっているのが現状で、これがコロナ終息後に回復するのか、回復不可能なこともあると思う。「現状のままでいい」についても、満足しているのではなく、これ以上か関りたくないという意識も現れているのではないか。心配されるのは、20～40代のこれから長浜市を担う若い世代に近所づきあいをしたくない人が多いこと。市民全体でアンケートをすれば、この傾向は更に強くなるものと心配する。これまでは、近所でいつ誰が亡くなったかもわかっていたが、家族葬が増えたことで、亡くなったことがわからないことすらある。これが元に戻るのか、この方が良いと思う世代が増えていて、今までのやり方を見直す、つながりを薄くすることも出てくるのではないか。コロナ終息後に同じようなアンケートを取るとどうなるのか、現アンケート結果と比較をするとわかると思う。

(委員)

・各質問の回答に矛盾が多く、市民感情が本当はどうなっているのかわからない部分もある。  
・コロナの影響で、様々な行事が中止となっている。この状況下でも如何にして実施するか、よりもできればこれをきっかけにやめてしまいたいという思い人が多いように感じる。コロナ終息後、どうなるのか心配に思う。みんなは本音でどう考えているのか知りたい。

(委員)

・コロナ終息後も同じような状況が続くのではないかと危惧している。  
・法事関係や子供会の行事の中止など、コロナを大義名分にして安易に楽な方向へ大人が向かっているような気がする。  
・子どもたちはこれからの地域の担い手。子ども会やラジオ体操もない、祭りもないなど、子どもたちと地域の関わりが無くなってきている。子ども達が自分の地域との関り、地域のつながりを大切にする環境がなくなっている。大人がそういう場を提供すれば子供は喜んで参加する。小学校の保護者会も楽な方に動いている。以前は子ども達のためだからと活動していた。こうした動きにコロナが拍車をかけている。このような状況で地域の担い手が育ってくるのか、子どもたちの視点も大事であると感じた。

(座長)

・アンケート結果を深く掘り下げて分析したことによって、ポイントとなる地域性が出てきた。長浜市の中でも地域課題に違いがあるので、そのあたりを意識して計画を作成すべきである。  
・コロナ終息後が今回の計画のポイントとなる。様々な行事も2年間中止すると無理だと言われている。その辺を見据え、意識した支援が必要だと思う。  
・アンケート結果が、10・20代で違う傾向にある。母数は少ないが、10代の方が地域に関心があるように見える。子ども達が、地域に関わって面白かったなという仕掛けをここ数年は意図的に計画していく必要があるかもしれない。市の行政計画と社協の活動計画が連携していく必要があると思う。

◇素案について

(座長)

・アンケート結果を踏まえ計画を進めるということなので、今後の予定を説明してほしい。

(事務局)

・現在は初期段階の素案の一部の抜粋を送付している。今後市民アンケート・グループヒアリング結果を盛り込んでいきたい。骨子案でお示しした大枠を記載させて頂いているので、引き続き、現状と課題、新たな取組について数値目標もできるだけ盛り込み計画として詰めていきたい。

(事務局)

・今後の進め方についてお願いだが、10月22日に第4回会議を開催したい。今後、素案の加筆修正を重ねて計画として完成度を高めたい。

(座長)

・現時点では2期計画と同じ内容で素案になっていない。その案を今後どう議論していくのか。10月22日の会議を最終とするのか。本来、アンケート、ヒアリング結果を踏まえ今の時代の課題を整理し、3期計画はこういうことを重点的にやる、という等の議論をしていくもので、文章までは細かく精査できないが、方向性を出していくべきだと思う。構成についても、市民アンケートはあるが、グループヒアリングの部分はどこに入れるのか。地域福祉の課題・現状を踏まえて項目を出して議論しないといけない。

10月22日にやってもう1回やるか、スケジュールの関係もあるがどうするか。

(事務局)

・ご指摘のとおり、現状にアンケート調査・グループヒアリング結果、コロナの影響にかかる対応など、盛り込まれていないので、ここから詰めていくもの。

・第4回会議を10月22日に設定したが、コロナの影響や、グループヒアリング、皆さまの意見を計画に反映させて頂きたいと思っている。10月22日の他にもう一度会議を開催させて頂きたい。22日から少し遅れるがご理解を賜りたい。少なくともあと2回は会議をお願いしたい。しっかりと計画をまとめていく。

(座長)

・スケジュールでは第4回会議で最後だったが、もう1回、追加で日程調整するというのを理解した。この時期の地域福祉計画は非常に重要である。第3期計画をどのようにするのか、第2期計画策定時は、現在実施している事業に、新たな取組を加えた。その点、第3期計画では、重点事業として書くのか、各項目に新たな取組を書くのか、どのようにするのか。今後の課題解決のため、行政だけでなく地域福祉を皆で推進していくのだが、計画の構成も含めて検討してほしい。

(委員)

・確認だがあと会議はあと2回やる。今回は計画にかかる議論はせず、次回、これまでのアンケート結果を踏まえた素案について意見交換をするということで理解した。

(委員)

・現状を踏まえどうやっていくのか、2期計画の時と現状と課題は違っている。高齢化も進んでいる。そういう中で、どういう社会をつかっていくのか、福祉計画の中で予防策というか、重点的に取り組む内容を具体的にしてほしい。議論を深めていきたい。

(委員)

・予想もしなかったコロナの影響、その残していったものが悪いものだけでなく、その中で人のつながりが大事だということがわかった。子どもたちの動きを制限するのはつらい。こどもたちの未来はどうするのか、地域福祉計画がその枠を超え、ワクワクするようなことやできることを考えていく。今しかできないような体験など、少しでも笑ってもらえる地域にしないといけない。地域活動がときめくようなものであれば良い。

(委員)

・地域福祉計画と社協の活動計画は車の両輪と言われている。連携し、相乗効果を出してほしい。

(委員)

・コロナ禍において健康推進活動ができない。何かできることがないかを考え、フレイル予防の活動を進めている。年代が上の人も多く、人と関わりを持つことを嫌がる人もいる。できることからやっているが、人材不足が課題。その他にもいろんな課題がある。

(事務局)

・貴重な意見を活かし計画の策定を進めていく。次回10月22日とお願いしているが、今後の予定は再考して改めてご連絡を差し上げる。暗い計画ではなく、明るく楽しい未来に向けた計画にしたいので引き続きご協力をお願いする。

以上